

デジタルネイティブ

東京都立晴海総合高等学校 キャリアカウンセラー

千葉吉裕

高校生の携帯電話の所持率は非常に高く、1台だけではなく、複数台所持している高校生も少なくありません。電卓や辞書代わりに使うのは当たり前、調査の試験範囲などの掲示物を書き写すのではなく、写メ（カメラ付き携帯電話で画像を撮影すること）で記録する生徒も多数。顕微鏡のスケッチをするのに丁寧に書きたいと、家でスケッチを完成させるために顕微鏡の接眼レンズに携帯電話のカメラを押しつけ写メしたり、化学の実験を動画で記録したりする生徒もおります。すでに携帯電話は、高校生の必要不可欠なアイテムになっているのです。

高校生が所持する携帯電話の特徴をみると、学年ごとで、異なっています。3年生は、ガラ携（ガラパゴス携帯の略で、ワンセグやお財布機能などがついた日本製の携帯電話で、世界標準からはずれた携帯のこと）からスマートフォンへの機種変更が進んでおり、2年生はガラ携ばかり、1年生はスマートフォンを所持する傾向が高いようです。この違いは、高校に入学する時に新しい携帯電話を持つようになるためで、1年生が入学した2011年4月は、すでにスマートフォンは売れ筋商品になっており、1年生は初めからスマートフォンを所持しています。2年生が入学した2010年4月はスマートフォンがそれほど普及していなかったもので、2・3年生はガラ携を購入、その際、2年間継続契約で、通

信料が割引になる制度を利用することが一般的なので、購入から2年間経っていない2年生は、ガラ携を所持しているようです。ちょうど2年間経ったところで、携帯電話を変える生徒が出てきます。その理由は、携帯電話でのやり取りが、中学生までは家族との連絡が多いのに対し、高校2年生くらいになると、ほとんどが友人同士になるためです。すると、家族同士の連絡が無料になる料金プランより、友達と同じ携帯会社だと通話料が無料になるという料金プランのほうが携帯電話代が安くなるので、生徒同士同じ携帯会社を変えることになり、その際、機種をスマートフォンに変えるわけです。家族で同じ携帯会社を利用すると割引になるシステムよりも、友人同士で同じ携帯会社を利用するほうが、割安になる点が力ぎです。スマートフォン本体価格はかなり高いので、本体価格が安くなる携帯会社を選ぶことも重要なポイントのようです。

高校生に聞くと、ほとんどの生徒が小学校の時から携帯を所持していたと言います。所持の理由は、防犯上保護者に持たされたとのこと。今の高校生は、物心ついた時には、携帯電話が存在し、大人たちが携帯電話を使っているのを見ていたわけで、携帯電話は服を着るのと同じくらいに所持しているのが当たり前のことです。一人ひとりが携帯電話を持つことで、面白い変化が起こっています。例えば、ホームルー

ムなどでクラスメイト全員に連絡する場合、「あとで、〇〇について連絡するので、メールを見ておいてください。」というような肝心の内容は告げない発言は日常茶飯事です。連絡網で順番に伝言する連絡方法はなくなりました。好きな娘の家に電話する時、家族ではなく本人が真っ先に電話に出てくれなしかとドキドキするようなことも今の子どもたちにはありません。

その高校生が今、スマートフォンを持つようになりました。これは劇的な変化を及ぼすと予測しています。スマートフォンは、ガラ携と使い方が大きく異なっているからです。スマートフォンは携帯電話とパーソナルコンピュータの両方の特徴を備えた道具ですから、情報収集の方法、情報伝達の方法、友達との関係などがさらに大きく変わることになるでしょう。私が特に注目しているのは、mixi、Facebookといったソーシャルネットワークキング・サービス（SNS）の活用の仕方です。スマートフォンの普及に呼応するように、受験産業や上級学校はmixiやFacebook、Twitterなどで、広告を始めるようになっていきます。高校の先生でSNSを利用している人はまだ多くはありません。教員の目の届かない所で、生徒たちは、勝手に進路の情報収集することが増えるだろうと思うのです。その時、高校の進路指導の役割、方法は、大きく変わらざるを得なくなるでしょう。